

家庭教育・子育て支援担当者研修会 ～教育と福祉の連携による家庭教育支援の充実～

職員研修
有志指導者研修
要請研修

市町村の家庭教育担当者や子育て支援担当者だけでなく、家庭教育・子育て支援に携わる様々な業種の方々に参加いただきました。研修では、教育分野と福祉分野が情報を共有し、連携・協働することで、単独で取り組むよりも支援が充実することについて知り、より深く考える機会となりました。

【基調講演】「教育と福祉の連携による家庭教育支援の取組」



山野則子氏

大阪公立大学現代システム科学研究科教授

スクールソーシャルワーク評価支援研究所 所長 山野 則子氏

家庭教育支援と子どもの貧困問題は大いに関係がある。物質資源の欠如によりソーシャルキャピタル、ヒューマンキャピタルの欠如に至り、孤立、虐待、問題行動、学力低下が起こり、負の循環に陥る。支援を必要としている子どもは、コロナ禍で9割に増えたが、児童相談所等公的な機関が対応できるのは、極一部(1%)である。子どもの問題に対応していくために、SSW(スクールソーシャルワーカー)を活用し、コミュニティスクールや地域学校協働活動と融合できる仕組みである「スクリーニング」を活用していくことで「チーム学校」になっていき、そして、学校からつながる仕組み「学校プラットホーム」になっていく。学校という「場」は、教師も子どもの様子を見ることができ、全ての子どもが様々な資源や支援と繋がることのできる場所。「学校プラットホーム」に関わる人々の身近さと熱さが子どもや親を育て、変えていく。というお話をいただきました。

【パネルディスカッション】 ～行政と協働で実施事業～

*特定非営利活動法人

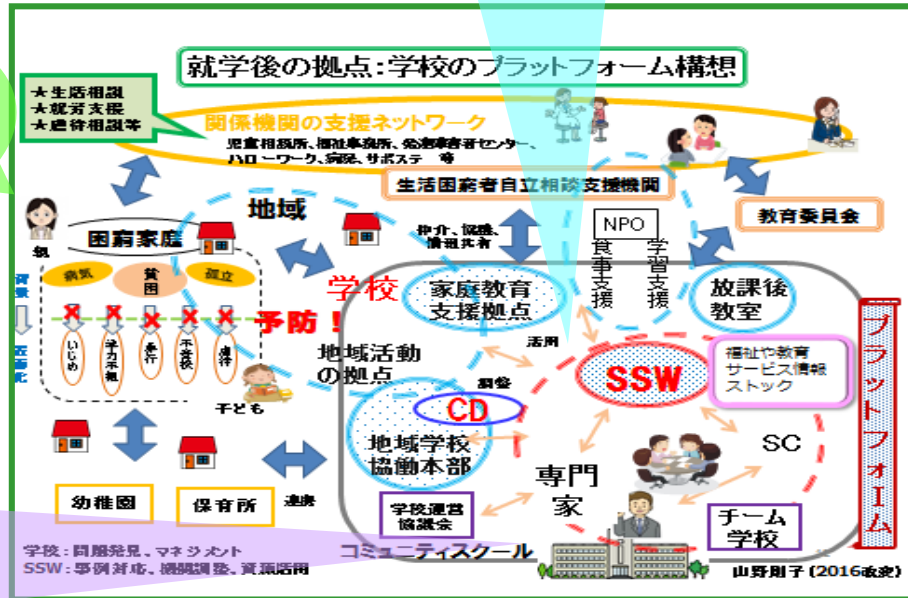
ふれあいステーション・あい(宮古市)

理事 澤田 優美 氏

家庭訪問型子育て支援「ホームスタート」の実践を発表していただきました。行政と協働で行うメリットとして、①事業の周知②利用への安心感③運営委員会への行政参加④保健センターとの連携が挙げられました。また、活動を支えるボランティアの養成研修も行っています。



2つの事例の学校プラットホームでの位置付け



山野則子先生の講義資料より

【パネルディスカッション】 ～学校と家庭教育支援チームの連携・協働～

*城北家庭教育支援チーム(八戸市)

サポーター 七條 いつ子 氏

学校と家庭教育支援チームの連携・協働について発表していただきました。保護者の相談活動、教育活動支援、学校と地域を結び、地域の声を学校に届ける役割を果たされているということでした。家庭教育支援チームという位置付けですが、地域学校協働活動も行っています。

《受講者の声》

*母子家庭-貧困-虐待-不登校が密接に結びついていることを数値で示され、深刻さを再認識した。家庭教育を補完する必要性を痛感しつつ、対応部署がないと右往左往していたが、全国的にも同様の状態であることを知った。「家庭教育支援チーム」をコミュニティスクールとタイアップする、という大きなヒントをいただいた。

*虐待防止の抑止力として、地域力が有効であることを改めて学ばせてもらった。組織として「家庭教育支援チーム」の立ち上げ、サポートをする部署や担当課があると良いと思った。

《受講者の評価》

A(有意義)	85%
B(どちらかといえば有意義)	15%
C(どちらかといえば有意義でない)	0%
D(有意義でない)	0%

《担当者(佐々木)から》

山野先生の実践研究結果から、教育と福祉の連携に地域力が有効であることが明らかになりました。今後、家庭教育・子育て支援の充実のため、地域との連携の強化がますます求められるようになって感じました。コミュニティスクールと家庭教育支援チームとのタイアップにより、家庭教育・子育て支援が充実する好機ではないかと感じました。



様々な業種の皆様に参加いただきました